

翼をください

作詞者 山上路夫(1936－)。東京都生まれ。病弱だったため、中学校を中退し、独学で作詞家となる。ひまわり社、小学館などで雑誌の仕事をしながら作詞を手掛けた。「学生街の喫茶店」「世界は二人のために」「瀬戸の花嫁」などのヒット曲がある。

作曲者 村井邦彦(1945－)。東京都生まれ。慶応義塾大学卒。作曲家。音楽プロデューサー。1969年に作詞者の山上路夫と音楽出版社アルファミュージックを設立。「虹と雪のバラード」など多くの作品を作曲したほか、荒井由実、YMO、赤い鳥、ガロなどのプロデューサーとしても活躍した。

編曲者 伊藤康英（→本書 p.107）

楽曲解説

フォーク・コーラス・グループ「赤い鳥」が1970年に制作したレコードによって知られるようになった曲。「赤い鳥」は男性3人、女性2人のグループで、69年にライト・ミュージック・コンテストでグランプリを受賞。74年に解散。その後、「ハイ・ファイ・セット」と「紙ふうせん」に分かれて活動した。

取り扱い上の要点

- 「いまわたしの……」のE音と、「ねがいごとが」のE^b音に注意する。
- 「かなうならば」のようなE音からC音への6度跳躍を、しっかり音を取り、C音が低くならないようにする。
- 「つばさがほしい」は「h」の子音をはっきり出す。
- 4ビートから8ビートに変わるところにあるクレシェンドを、計画的にする。
- 後半部分のシンコペーションを意識することによって、リズムを強調する。

花は咲く

作詞者 岩井俊二(1963－)。宮城県生まれ。映画監督、映像作家、脚本家。横浜国立大学卒。映画、テレビ番組、CM、ミュージック・ビデオなど数多くの映像作品があり、独特の映像美で知られる。代表作に映画『Love Letter』『スワロウテイル』『リリイ・シュシュのすべて』など。

作曲者 菅野よう子。宮城県生まれ。作曲家・編曲家。ゲーム、アニメ、テレビドラマ、CM、映画などの音楽を数多く手がける他、SMAPら多くのアーティストに楽曲を提供している。

編曲者 高山直也(1955－)。東京都生まれ。作曲家、音楽評論家。武蔵野音楽大学卒。1981年日本国民音楽振興財団（現・日本音楽財団）作曲コンクール第1位。ビクターなど数々のレコーディングに参加。

楽曲解説

東日本大震災(2011年3月)の復興支援のためにつくられたチャリティーソング。12年5月、被災地出身者やゆかりのある歌手やタレント、スポーツ選手らによる「花は咲くプロジェクト」名義で発表された。NHKのテレビやラジオ各局で随時流された他、さまざまなコンサートやイベントで歌われ、ピアニストの辻井伸行やウィーン少年合唱団、イル・ディーヴォらもカバーを発表。

第63回～66回（2012～15年）NHK紅白歌合戦でも歌われ、13年の選抜高等学校野球大会では入場行進曲に使われた。

取り扱い上の要点

- この曲がつくられた経緯を知り、歌詞の意味をよく理解したうえで歌う。
- サビの「はなは はなは はなはさく」の部分、「花」の「は」を明瞭に発音すること。
- 繰り返されるサビのフレーズが単調にならないよう、歌い方や表現を工夫してみるとよい。

（大橋悦子）

伴奏譜…別冊p.2

少年時代

作詞・作曲者 井上陽水(1948－)。福岡県生まれ。本名は陽水^{あきみ}。1969年にアンドレ・カンドレの名でデビュー。72年に改名し、73年の「夢の中へ」が初のヒット曲となる。同年に発表された『氷の世界』は日本初のミリオンセラーアルバム。75年には吉田拓郎らと「フォーライフレコード」設立。多方面で活躍中。

作曲者 平井夏美(1950－)。東京都生まれ。作曲家、編曲家、ディレクター。本名は川原伸司。松田聖子、岩崎宏美、渡辺満里奈ほかに作品を提供。松田聖子が歌った「瑠璃色の地球」が有名。

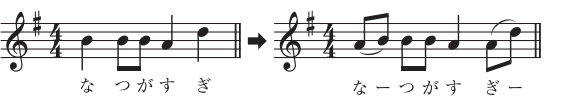
編曲者 森垣桂一（→本書 p.107）

楽曲解説

1990年の東宝映画『少年時代』の主題歌として知られる。借用和音を使っている中間部以外は、同じコード進行に、ハーモニーがついている。

取り扱い上の要点

- 井上陽水がこの曲を歌ったCDを聴き、ポルタメントや微妙なリズムのずれを感じ、譜例のような歌い方に取り組ませることによって、いろいろな歌い回しを工夫し、楽譜に書けない音を知る。



●歌詞に「a」の母音が多く用いられているので、それぞれの言葉に合った発音を工夫する。「y」子音もたくさんあるが、「i」の響きを十分に準備して発音する。「わたし……」の出だしの「w」も同様に、「u」の響きを準備し発音する。

- 「おもいでのとさきー」のデクレシェンドを自然にする。
- 最後のHum.は、よく鼻腔を共鳴させる。
- リズム・セクションにスネア・ドラムを加えたり、ベース・パートにエレキ・ベースなどの楽器を加え、音を充実させる。

伴奏譜…別冊p.6

小さな空

作詞・作曲者 武満 徹 (1930－96)。東京都生まれ。作曲家。「弦楽のためのレクイエム」がストラヴィンスキーに絶賛され、広くその名が知れ渡ることとなった。「ノヴェンバー・ステップス」により、現代を代表する世界的な作曲家として、武満独自の音響世界を創造していったと同時に、ポピュラー曲のアレンジや、親しみやすい歌曲、また映画音楽も数多く残している。

編曲者 伊藤康英（→本書 p.107）

楽曲解説

1962年、ラジオ番組「ガン・キング」の主題歌として、ジェリー藤尾によって歌われた。81年には混声合唱に編曲され、東京混声合唱団のアンコールピースとして歌われた。各フレーズは、弱起で引き出され、さらに6度音程の上昇型によって形づくられているのが大きな特徴である。その上昇音型の繰り返し、音楽にゆるやかな起伏と流れを与え、シンプルな旋律でありながらも歌う者に音楽の生命感を感じさせてくれる。

取り扱い上の要点

- 歌詞の素朴さを損なわないよう、しつこく感情移入せず、またテンポが遅すぎることがないように意識する。
- 6度音程を正確にとる。またJ-POPの歌い方に見られるような、下からすくい上げるような歌い方にはならないよう十分注意する。
- 歌詞に書かれている情景をイメージさせる。また、歌詞を覚えさせて歌うと、音楽表現にも幅がうまれ、大きな効果を得ることができる。
- 1～3番のそれぞれの歌詞にあった歌い方を工夫させる。3番の「よぞらをみたら～」の部分の強弱はピアノであるが、小さな声で歌うことを目的とせず、はっきりと語りかけるように歌うことが肝心である。
- ピアノ伴奏部左手の分散和音音型が、重くうるさくならないよう、音楽の流れを十分意識する。

簡易伴奏譜…別冊p.8